

校内放送指導者講座
ドキュメント制作講習

日本放送協会
制作局 青少年・教育番組部
市谷 壮
ichitani.s-gi@nhk.or.jp
(2009.12.28. 千代田放送会館)

今日の話題

1. ドキュメントというジャンル
2. 取材の基本
3. 番組作りのプロセスと取材
4. 参考図書

1. ドキュメントというジャンル

「NHK国内番組基準」では・・・

教養番組	教育番組
学校放送番組	児童向け番組
報道番組	スポーツ番組
芸能番組	娯楽番組

制作者のタイプを分けると・・・

・ジャーナリスト
・演出家

NHK制作局の組織では・・・

<ジャーナリスト系>
生活・食料番組 経済・社会情報番組
文化・福祉番組 科学・環境番組
<演出家系>
音楽・伝統芸能番組 ドラマ番組
エンターテインメント番組
→青少年・教育番組はどっち・・・？

市谷の考え

- 「ジャーナリズム」と「演出」は常に混在
 - ジャンルによって比率が異なる
 - 「ジャーナリズム」の比率が高い番組が「ドキュメント」と呼ばれることが多い
- 放送コンテストの「ドキュメント部門」は、「ドラマ」をのぞくすべて、と考えてみては？

2. 取材の基本

番組作りの基本は取材

- ドキュメントは取材で得られた情報で作る
- 1に取材、2に取材、34がなくて、5も取材
- つまらない番組、わかりにくい番組は、たいてい「取材が足りない」
- ドラマや芸能の番組にも取材は必須

相手に会って話を聞く

- 直接会わない取材（電話・メール）では、得られる情報の質が低くなる。
- 新聞・雑誌・書籍・ネットなどで情報を集めるのは、単なる「資料収集」。
取材とは言わない。

会って話を聞くと・・・

- その人にまわりついている空気を
感じることができる
→情報の説得力につながる
- 当初の目的とは別の「おいしいネタ」が拾えることがしばしばある

アポをとる

- 相手の都合にあわせて日時の約束
- 相手の「ホームグラウンド」を訪ねる
自宅／職場／活動場所 など
- 相手が来訪を嫌がる場合は無理強いしない
(学校や喫茶店などに来てもらう)

取材前の準備 その1

- 取材相手のことは、調べられる範囲で調べておく。
(ちょっと調べればわかるようなことを
質問するのは失礼だし時間のムダ)
 - 相手が何かの活動をしているような場合は、
一般客として参加しておくのもアリ。
- 事前準備を丁寧にやっておくことで、取材当日の
質問が具体的になり、より深い取材になる。

取材前の準備 その2

- 質問を整理しておく
 - ・質問を短く簡潔な口語文にまとめる
相手が質問の意味を理解できないと
取材にならない
 - ・「5W1H」を押さえる
 - ・yes/noで答えられる質問は最小限に
 - ・質問する順番／優先順位も決めておく

相手に会ったら・・・

- 最初に話すことは
「自分たちは何者なのか」(自己紹介)
- 次に話すことは「この取材の目的」。
企画自体を探すためのなのか
何かについての証言がほしいのか
その人に何かを頼みたいのか など

取材の進めかた

1. 事前の質問をひとつおき聞いてから
深められそうなところを掘っていく
 2. 事前に考えた質問を順番に聞いていき、
深められそうな答えに出会ったら、
そのつど掘れるところまで掘る
- 時間の制約が厳しい場合は前者、時間が
たっぷりある場合は後者など、臨機応変に
その場で判断して、取材を進める。

相手の気持ちを考える

- たいてい相手は忙しい
- 質問が右往左往すると
相手が不安になる
- 相手が言われて嫌な気分になるような
質問や話し方は避ける

メモをとる

- メモは必ずとる
- 相手の了解が得られれば、録音・録画も
した方がいいが、あくまでもバックアップ。
自分のメモがメインメモリー。
- 数字は正確に教えてもらい、これもメモ。
- 取材専用ノートを作る。
一枚紙のメモは厳禁。

ちょっとしたアドバイス

- 相手の答えを自分が理解しきるまで
次の質問に行かない
→理解しないまま進めるより、腑に落ちるまで
相手に待ってもらったり、聞き返した方がいい
- もらえる資料は遠慮しないでもらう
- 後日返さなくてはならない資料の借用は、
必要最小限にとどめる。
→その資料が必要になる直前に借りにいき、
使い終わったらすぐに返すのが理想的。

取材の整理はその日のうちに

- メモはたいていぐちゃぐちゃ
→一晩おいてしまうとディテールは忘れてしまう
- 取材で聞いたことはその日のうちに
整理する
- 書式やファイル名のルールを決めて
文書データ化して蓄積する。特に、日時・
場所・取材対象・取材者の記録は必須。

質問力アップのトレーニング

- 授業の中ででた良い質問をほめる
- 文章を読んで疑問に思うことを
できるだけたくさん書いてみる
- 何か手ごろなテーマを設定し
取材する人と取材される人になりきって
ロールプレイ
(役割を交換して両方を体験)

3. 番組作りのプロセスと取材

番組作りのプロセス

- | | |
|----------|---------|
| ・テーマを探す | 企画作り |
| ・テーマを決める | 企画採択 |
| ・テーマを深める | (事前)取材 |
| ・番組の形を作る | 構成／台本作成 |
| ・素材を集める | 撮影／録音 |
| ・番組にまとめる | 編集 |
| ・完成後の作業 | 後処理 |

企画作りの取材

- 新聞を読む
 - ・地域情報のページ
 - ・世の中の動き
- ひっかかった情報の中に
会えそうな人がいたら連絡してみる
- 集めた情報の中から次の取材先を
探して取材の範囲を広げていく

テーマを決めるときの取材

- ・集めた情報を一覧できるようにして
長所／短所を比べてみる
- ・テーマありきではなく
取材時の印象や手ごたえが大事
- ・「ウラをとる」
ひとりの人の話に寄りかからない

テーマを深めるときの取材

- キーになる人を見つけて
芋づる式にいろいろな人に会う
- キーになる人＝番組にとりあげる人
ではないことが多い
- 「この人が大事」と思ったら、
相手の都合も尊重しながら、**何度も会う**

撮影・録音

- この段階こそが、本当の「取材」とも言える。
- 構成・台本にとられると
「**その場の真実**」を見失う。
- 事前の構成・台本を頭の中に置きつつ、
冷静かつ臨機応変に撮影や録音を進める
- 「**臨機応変な判断**」と
「準備なきアドリブ勝負」を混同しない

編集時の取材

- 編集の段階で、必ず「取材が足りない部分」が
見つかる
- 情報があいまいなところは追加取材で確認**
- 追加撮影・追加録音の手間を惜しまない
- 事前の想定と取材結果が食い違うところは、
取材結果を優先させる。
- 構成・台本・結論ありきの編集は絶対にしてない

完成後の作業

- お世話になった人全員に**お礼を兼ねて完成報告**
- 借りたものは必ず返す**
- 撮影・録音したけれど編集で落とした場合は
経過を説明
- 可能な範囲で完成した番組を渡し、感想を聞く。
取材に沿って丁寧に作った番組なら、たいいてい
ほめてもらえる。
→次の番組作りへのモチベーションにつながる。

まとめにかえて

- 番組の質は**取材の厚さ**で決まる
- 演出のアイデア**も取材から生まれる
- 取材に「近道」なし
- 生活態度**がそのまま相手に伝わる
- 日頃のインプット**が基礎体力になる

4. 参考図書

山登義明「テレビ制作入門」
平凡社新書（絶版）

山登義明「ドキュメンタリーを作る」
京都大学学術出版会

校内放送指導者講座 ドキュメント制作講習

日本放送協会
制作局 青少年・教育番組部
市谷 壮

ichitani.s-gi@nhk.or.jp

パワーポイントのデータ(pdf)をご希望の方は
制作講習の感想つきで市谷あてご連絡下さい